

### 1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：宮古島

協定対象漁業集落名：宮古島漁業集落

協定参加世帯数：59世帯（61人）

（うち漁業世帯数：59世帯（61人））

### 2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、良好な漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、宮古島集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

### 3. 取組の内容

#### ①漁場の生産力の向上に関する取組状況

種苗放流の取り組みでハマフエフキ、シラヒゲウニの放流を実施し、水産資源の維持・回復を図ることとした。また、食害生物等の駆除で漁業被害をもたらしているためサメの駆除を実施し、漁業被害の軽減及び安全操業を図ることとした。



種苗放流（タマン放流）



種苗放流（シラヒゲウニ放流）



食害生物等の駆除（サメ駆除 作業）



食害生物等の駆除（サメ駆除 船揚げしたサメ）

## ②漁業の再生に関する実践的な取組状況

新規養殖業への着業の取り組みでは、モズク漁場での水温データの共有システムを構築し、新たにモズク養殖への着業を推進するために水温計の設置を行った。また、高付加価値化の取り組みでは、モズク品質向上を目的として伊是名・伊平屋への視察を行った。また、流通体制改善の取り組みでは、活エビ水槽の活用としてイセエビの飼育、タグ付け及びイセエビの流通、増殖施設等について宮崎県視察を行った。また、体験漁業の取り組みでは、小中学生を対象に追い込み網体験・アーサ収穫体験を行い漁業の魅力発信を図った。また、魚食普及の取り組みでは、イベント（朝市）を実施し宮古島市産水産物の消費拡大を図った。



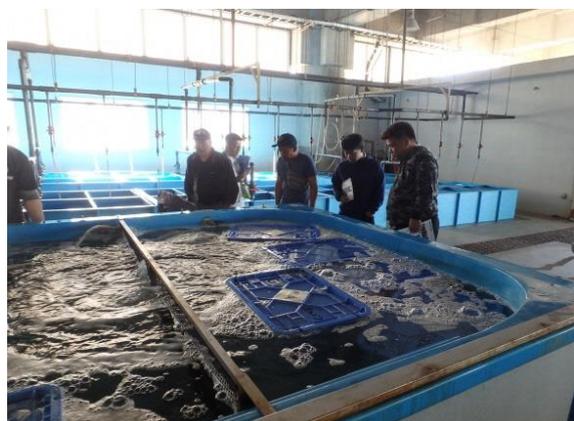
高付加価値化（伊是名漁協視察）



高付加価値化（伊平屋 養殖現場視察）



流通体制改善（宮崎市漁協視察）



流通体制改善（南郷漁協視察）



流通体制改善（鮮魚流通に関する視察）



流通体制改善（鮮魚流通に関する視察）



体験漁業（追い込み漁体験）



体験漁業（追い込み漁体験）



体験漁業（アーサ収穫体験）



体験漁業（アーサ収穫体験）



魚食普及（パヤオまつり）



魚食普及（朝市）



魚食普及（朝市）

#### 4. 取組の成果

交付金交付対象漁業者所得平均 1,638 千円

漁業集落漁業就業者数 61 名

漁場の生産力の向上に関する取組については、種苗放流の取り組みでハマフエフキ 1,525 尾、シラヒゲウニ 6,200 個の放流を行い水産資源の維持・回復を図った。宮古島市におけるハマフエフキ（タマン）の水揚量は、平成 28 年が 2,318 キロ、平成 29 年が 2,261 キロ、平成 30 年が 3,021 キロとなっている。シラヒゲウニに関しては、依然として資源が少ないため放流数や場所の検討などを行い維持・回復に繋げていく必要がある。また、食害生物等の駆除の取り組みによるサメ駆除の実施により漁業被害の軽減及び安全操業の確保が図られた。

漁業の再生に関する実践的な取組については、新規養殖業への着業の取り組みでは、モズク漁場での水温データの共有システムを構築し、新たにモズク養殖への着業を推進するために水温計の設置を行った。また、高付加価値化の取り組みでは、モズクの品質向上を目的として視察を行い、視察で得た情報を各構成員がモズク養殖に活かすことで高付加価値化を図っていく。また、流通体制改善の取り組みでは、活エビ水槽の活用としてイセエビの飼育、タグ付け及びイセエビの流通、増殖施設等についての宮崎県視察や鮮魚の流通について東京、大阪等視察を行った。視察で得た情報を今後の流通体制の改善に向けて活かしていく。また、体験漁業の取り組みでは、中学生を対象に追い込み網体験を行い漁業の魅力発信を図った。また、魚食普及の取り組みでは、青空市場を開催し宮古島市産水産物の消費拡大を図った。